

## 日本文学科卒業生のキャリア報告

### Report on Careers of Graduates of the Department of Japanese Literature

坂本 清恵  
Kiyoe Sakamoto

日本女子大学日本文学科では、1年生に対するキャリア教育を、2014年から毎年前期にキャリア支援のエキスパートである卒業生鳥巢彩乃氏<sup>1</sup>の協力を得て行ってきた。その目的は、入学時から自身のキャリアについて具体的に考え、生涯にわたるキャリア構築の機会を持つことが重要であるとの学科方針によるものであった。それには、学生やその父母が、日本文学科で学ぶことによって、教員になるか、出版などの限られた職業にしか就けないのではないか、就職がむずかしいのではないかという不安を持つことを懸念し、それを払拭する必要もあった。この1年生に対するキャリア教育は、コロナ禍により3年間中断したが、2023年度は対面で行うにあたり、父母の皆様にも初めてご参加いただくことにした。

鳥巢氏からは開催にあたり、今までとは異なり、卒業生に自らのキャリア構想についてお話しいただくという、ロールモデルの登壇の発案をいただいた。その人選を行うことと卒業生の活躍を確認するために、連絡可能な卒業生に簡単なアンケート調査を3月に急遽行った。本報告は、このアンケートに基づく日本文学科卒業生のキャリアにかかわる動向である。キャリア動向を明確にするためのアンケート調査ではないため、情報が欠けていることや偏っていることをお断りしておく。

#### 1) アンケート回答者の現在の状況について

今回のアンケートには、2023年3月現在、卒業後20年以内の154名から回答を得ることができた。年齢構成は表1「年齢と現在の職業的立場」のとおり、22～27歳が76名と、28～32歳が44名で、中心的な回答となった。154名の回答者のうち、正社員が123名の80%で、産休育休中の11名をいれると87%が正社員で働いている。なお、アンケートでは、結婚の有無、子供の有無を問うていない。

表1 年齢と現在の職業的立場

| 年齢     | 正社員 | 契約・アルバイト | フリーランス | 産休育休中 | 起業・自営 | 職なし | 計   |
|--------|-----|----------|--------|-------|-------|-----|-----|
| 22～27歳 | 69  | 3        |        | 1     |       | 3   | 76  |
| 28～32歳 | 30  | 4        | 1      | 6     | 1     | 2   | 44  |
| 33～37歳 | 16  | 2        | 2      | 3     |       | 1   | 24  |
| 38～41歳 | 8   |          |        | 1     | 1     |     | 10  |
| 計      | 123 | 9        | 3      | 11    | 2     | 6   | 154 |

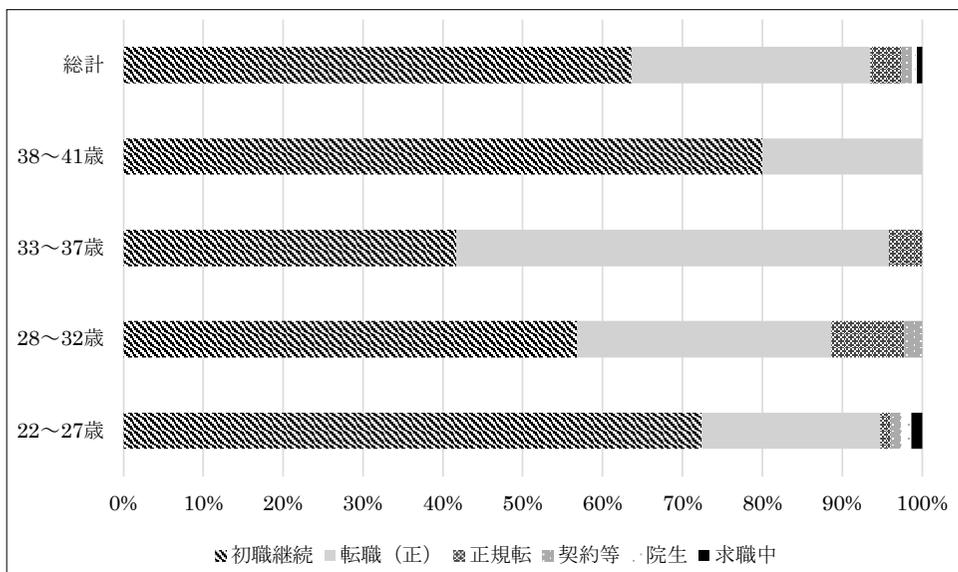


図1 年齢と現在の状況

また、卒業後の初職をそのまま続けているかどうかについては、図1に示した。

図1「年齢と現在の状況」は、それぞれのキャリア歴について書き込んだものをまとめたものである。卒業生に対する悉皆調査ではないこともあるが、結婚、出産による離職はわずかしかない。これまで女性の就業にかかわる問題とされてきたM字カーブやL字カーブとの関係などを見ることはできない。むしろ、先に示したとおり、87%が転職をしても正社員であり、起業、フリーランスなども含めフルタイムで働いていることがうかがえる。初職を継続中のなかでは7名が産休育休を経て、すでに仕事に復帰をしている。M字やL字とはならない充実した職業生活を行っているといえる。

また、図1のように卒業後、徐々に初職からの転職がみられ、卒業後10年以降の33～37歳では、初職継続よりも転職が上回った。

転職して正規で働いている中には、「放送通信会社に入社後、広報としてメディア対応を担当、3年目に不動産業界へ転職（何社か経験）し、働きながら宅建、不動産鑑定士を取得。その後結婚、妊娠～子供が幼稚園に入るまでは不動産鑑定士（個人事業主）として顧問やセミナー講師、不動産の調査業務等の受託を行い、子供が幼稚園入園後、落ち着いたタイミングで、正社員としてリース会社に入社、現在に至る。同社入社当初は国内外の不動産ファンドへの投資業務を担当（海外不動産ファンドチーム統括）、海外出張等も経験。昨年、社内公募制度により戦略投資部へ異動。現在、同部にてスタートアップ企業等への投資業務を担当（課長職）。昨年末に副業制度が施行されたため、本業と並行して不動産鑑定士事務所を開業するべく準備中。」と記すように、キャリアを積みながら、起業を目指すという。働きながら、子育ても行い、資格も取得し、次のステップへ進もうという意欲的にキャリアを築いている卒業生もみられる。

また、国家公務員で活躍してきたが、日々の仕事に追われ、自身の仕事かどのように充実したのかが分からないことから、転職をしたというケースもある。自らのキャリアを積極的に見直し、転職によりそれを実現させようという意欲がうかがえる。

転職が自らのキャリアを見直したうえでなされていること、産休、育休を取得しながら、正規で働き続け、自らのキャリアを着実に築きあげている様子が今回のアンケートからは浮かび上がった。

なお、初職継続の中には、数は少ないものの、初職から契約やアルバイトで働いているケースもみられる。たとえば、初職が国語の非常勤講師でそれを続けている場合や、演劇活動のためにアルバイトを続けている場合などである。正規で働いていなくても自らのやりたいことを実現しているといえる。

正規からパート、アルバイト職に代わった2名は結婚に伴うもので、正規から専業主婦2名、正規から職を離れた2名もいる。正規の職から離れるほうがむしろ稀な状況になっている。

## 2) 日本文学科卒業生所属の業種

回答者の現在の業種は図2「現職の業種」、表2「年齢と現職の業種」のとおりである。今回の範囲では、全体では表2のように「教育・学習支援」に従事が24%を占め、以下は「情報通信」「金融・保険」「サービス」「製造」「公務」の順である。

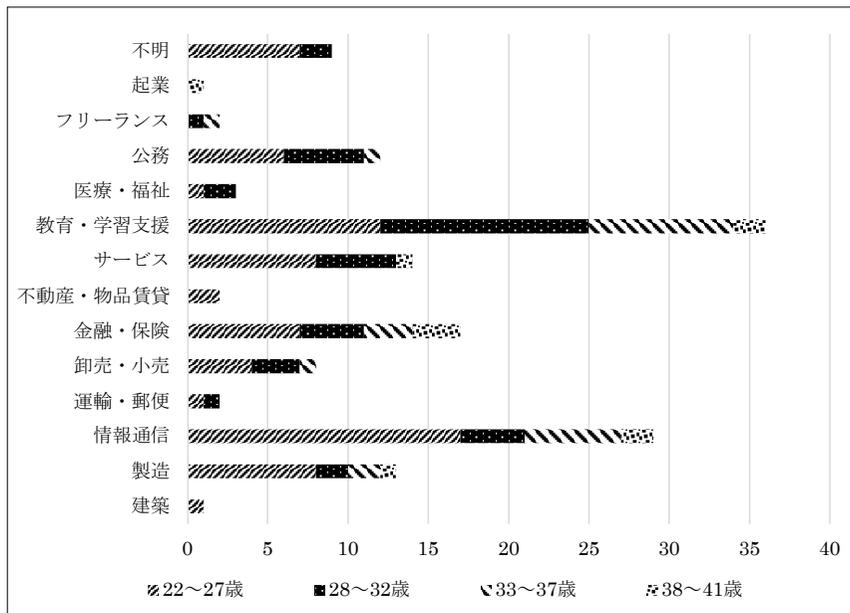


図2 現職の業種

2021年の日本文学科の就職状況をもみても<sup>ii</sup>、「教育・学習支援」への就職は、6.6%である。今回のアンケート結果において「教育・学習支援」が最多であるのは、この業種の卒業生がアンケートに協力的であったことは明確で、このアンケートが実際の卒業生の状況を完全には把握できるものではないことがわかる。全体の就職率から考えると回答者にたまたまこの業種が多かったのだが、一方で、どの世代もコンスタントに教員を輩出してきたともいえる。実際には、教員16名のうち、小学校教諭1名、中学9名、高校11名、

中高3名、高専・大学2名である。今まで学科の教育課程では取得ができなかった小学校の教諭にもなっている。他の10名は大学事務職員、大学図書館司書、大学研究所勤務、障害児支援の会社での指導などであり、その職種については多様である。

「情報通信」については、卒業5年までがその世代の23%で、「教育・学習支援」をしのご。これは、2021年の日本文学科卒業生との就職状況をもてもこの業種が20.7%でトップであることと同様の傾向であろう。転職してこの業種になったものも7名ほどいる。職種もSEからキャスター、シナリオライター、プロデューサー、人事担当など、こちらも様々である。

「金融・保険」は、これまでも多く卒業生が好んで就いた業種であったが、近年は徐々に割合を減らしており、今回の調査では11%が現職としている。

表2 年齢と現職の業種

|          | 22～27歳 |      | 28～32歳 |      | 33～37歳 |      | 38～41歳 |      | 合計  |      |
|----------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|-----|------|
| 建築       | 1      | 1%   |        |      |        |      |        |      | 1   | 1%   |
| 製造       | 8      | 11%  | 2      | 5%   | 2      | 9%   | 1      | 10%  | 13  | 9%   |
| 情報通信     | 17     | 23%  | 4      | 10%  | 6      | 26%  | 2      | 20%  | 29  | 19%  |
| 運輸・郵便    | 1      | 1%   | 1      | 2%   |        |      |        |      | 2   | 1%   |
| 卸売・小売    | 4      | 5%   | 3      | 7%   | 1      | 4%   |        |      | 8   | 5%   |
| 金融・保険    | 7      | 9%   | 4      | 10%  | 3      | 13%  | 3      | 30%  | 17  | 11%  |
| 不動産・物品賃貸 | 2      | 3%   |        |      |        |      |        |      | 2   | 1%   |
| サービス     | 8      | 11%  | 5      | 12%  |        |      | 1      | 10%  | 14  | 9%   |
| 教育・学習支援  | 12     | 16%  | 13     | 31%  | 9      | 39%  | 2      | 20%  | 36  | 24%  |
| 医療・福祉    | 1      | 1%   | 2      | 5%   |        |      |        |      | 3   | 2%   |
| 公務       | 6      | 8%   | 5      | 12%  | 1      | 4%   |        |      | 12  | 8%   |
| フリーランス   |        |      | 1      | 2%   | 1      | 4%   |        |      | 2   | 1%   |
| 起業       |        |      |        |      |        |      | 1      | 10%  | 1   | 1%   |
| 不明       | 7      | 9%   | 2      | 5%   |        |      |        |      | 9   | 6%   |
| 合計       | 74     | 100% | 42     | 100% | 23     | 100% | 10     | 100% | 149 | 100% |

なお、転職と業種の間接関係をみると、正規で働いている転職者46名のうち、業種を変えたものが31名、同業種での転職が13名、実家の家業の手伝いが2名である。業種を問わず、自身の活躍できる職をみつけている。

### 3) 日本文学科の学業とキャリア

新入生に対して、日本文学科での学びがどうキャリアで生かされているかを伝えるための質問に対しては、何らかの役に立ったという回答が139名でそのうちの132名が理由を書いている。集計にあたっては、記述内容を1から7にまとめ、卒業論文で扱った分野ごとに集計し、一人が複数の意見を書いている場合には別に扱い、表3「日本文学科で

の学びがキャリアで活かされたか」にまとめた。

〈記述内容〉

- 1 学びの循環が活かされた
- 2 女子大での過ごし方が活かされた
- 3 文章の書き方が書く力、読む力
- 4 言葉選びやコミュニケーション
- 5 学んだ内容が共感呼んだ
- 6 学際的な学び
- 7 資格取得

〈卒業論文の分野〉

古典文学（古典） 上代 5 名・中古 20 名・中世 38 名・近世 9 名  
 近現代文学（近現代） 26 名  
 日本語学（日本語） 34 名  
 中国文学・思想（中国文） 16 名  
 図書館情報学（図書館） 2 名

表3 日本文学科での学びがキャリアで活かされたか

|    | 古典 |      | 近現代 |      | 日本語 |      | 中国文 |      | 図書館 |      | 合計  |      |
|----|----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|
| 1  | 44 | 50%  | 12  | 46%  | 19  | 56%  | 7   | 44%  | 0   | 0%   | 82  | 49%  |
| 2  | 10 | 11%  | 1   | 4%   | 1   | 3%   | 1   | 6%   | 1   | 50%  | 14  | 8%   |
| 3  | 12 | 14%  | 6   | 23%  | 7   | 21%  | 4   | 25%  | 0   | 0%   | 30  | 18%  |
| 4  | 9  | 10%  | 4   | 15%  | 4   | 12%  | 1   | 6%   | 1   | 50%  | 19  | 11%  |
| 5  | 9  | 10%  | 2   | 8%   | 2   | 6%   | 2   | 13%  | 0   | 0%   | 15  | 9%   |
| 6  | 1  | 1%   | 0   | 0%   | 1   | 3%   | 0   | 0%   | 0   | 0%   | 2   | 1%   |
| 7  | 3  | 3%   | 1   | 4%   | 0   | 0%   | 1   | 6%   | 0   | 0%   | 5   | 2%   |
| 合計 | 88 | 100% | 26  | 100% | 34  | 100% | 16  | 100% | 2   | 100% | 167 | 100% |

ここでは、日本文学科で古典、近現代、日本語、中国文学・思想のいずれかを学んだかによって特にキャリアへの活かし方に特徴が出たとは言えない。

日本文学科の学びの中で、最もキャリアで活かされたことは、1の「学びの循環」である。日本文学科の学びは、問題発見から、解決に向けての調査を行い、その結果をまとめて発表するという繰り返しに重点をおいているが、これをキャリアで活かせたと評価している。具体的な意見には以下のものが挙げられる。

・図書館で文献を探し論文を書く、文学研究という一見古臭いような手法が、実は全ての学問の基礎であるということを実感した。多くの情報を得て、論理的な道筋をつけて自分の中でそれらを再構築し、そこから新たな考えを生み出す、これが社会で求められる思考力の原点であり、大学で学ぶ意義でもある。

・物事、事象に対して「要因」から捉える癖が身にき、頼まれた仕事をこなすだけでなく、課題を考え、自然とプラスαの仕事にすることができている。

・日文中で得た「自分で調べ、考察し、まとめる力」は実務で非常に役に立っている。具体

的には、業務で改善すべき点を見つけた際など、過去の適切な資料を探し出し、業務の意味や重要度、影響範囲を確認し、自身の考えをまとめたうえで周囲に改善案を提言しており、その姿勢について評価をいただけることが多い。

- ・講義やゼミで毎回何かしらのアウトプットを求められたことは、仕事を覚える過程や資格の勉強において課題を見出しクリアしていくのに役立っている。

- ・一番役立っているのは、自発的に自由に物事に取り組みさせてくれる教育であり、ゼミやそれ以外の授業もとても自由度が高く、自分のやりたいことはどんなことなのかを常に考えられるようになっている。

- ・演習では資料を作成する機会が多く、根気強く文献を集め、資料をまとめる力やそれを効率よく進めてく能力は、社会人生活において会議前の資料作成等に役立っている。また、自身で論を組み立て、それを人前で発表する力は社内でもプロジェクトを進めたり業務を遂行したりする上で役立っている。さらに、他者の論に対し、矛盾は無いか、根拠は弱くないか、そういったことを捉える能力や発言するという経験が、現在でもより良いアウトプットを出すという仕事上での力に繋がっている。

すべては、掲載できないが、日本文学科での学びの方法が、様々な仕事をするうえでの基礎的な力となっていることがうかがえる。

2の「日本女子大での過ごし方」としてまとめたものは次のような意見である。こちらは日本文学科卒に限らず、日本女子大学の創立理念やそれに基づく科目設置などが卒業生のキャリアを支えていることにつながる。

- ・寮生活や学園祭、国文学会の活動、自主ゼミなど、様々なことに関わって楽しい学生生活だった。興味を持ったことに何でもチャレンジできる環境がとてもよかった。また、建学の精神（特に「女子を人として教育する」という点。自立した生き方や、自分らしく生きることを考えながら過ごせた）、校風（教授陣ががんばる学生を応援する雰囲気がある。学生の大半が心優しく、アクティブで、意欲的な雰囲気。）が非常に合っていた。女性だけの環境によって、遠慮することなくのびのびとやりたいことに挑戦でき、また、キャリア育成やジェンダーの講義があったことで、第一志望ではなかったものの、結果的には他校、共学校よりためになった。

- ・女性だからと諦めることなく、積極的にリーダーシップを取るチャンスが多くあった。特に学生自治会長の活動では人前で話す機会が多く、就職活動の面接に緊張せず臨めた。また、先輩や同級生にアグレッシブな女性が多く、人生の早い段階でロールモデルを見つけられたことは貴重な財産だった。

- ・講義やセミナー、友人達との学生生活等を通して、「女性が社会で長く働く（活躍する）ためにはどうしたら良いのか」という事を常に意識できる環境だった。そのお陰で、就職先選びやその後のキャリア形成を前向きに捉える事ができた。

日本女子大学のきめ細かいキャリア教育、ジェンダー教育が功を奏した結果であり、性的役割分担を意識することなく、リーダーシップを身に着けることができたということであろう。

3「文章の書き方が書く力、読む力」、4「言葉選びやコミュニケーション」は、日本文学科で育まれたものと実感していることになる。具体的な科目についても記述があり、1と同様に日本文学科での学びの効果がうかがえる。あわせて意見を掲載しておく。

・言葉と向き合う学科だったので、文章の書き方は磨かれたように思う。社内での報告書などは褒められることが多かった。

・日本は空気感を非常に大切にしている国だと思うので、場面に合った言葉選びができれば、信頼を得て、摩擦を避けられる。日文で豊かな日本語に触れたからこそ、それが自身の一部となり、周囲の方（特に職場）からたくさんのサポートをいただけた。

・方言や敬語に対しての意識が高まり、仕事でお客さまとお話する際の言葉遣いや言葉選びに役に立っている。

・手紙やメールの出し方などの授業があったが、教科書は今でも保管してたまに見返す。正しい書き方が分かりやすく記載されており、役立っている。

・他大学の日文では学べない"自分で文章を書く、創作する"という授業があったことが、広報、プロモーションの経験として役立ち、転職活動でも一貫性を持って答えられた。

・「日本語」がとても役に立っている。日本語を幅広い時代を通して学ぶ学科だと認識しているが、その経験が言葉遣い、言葉の運びという点でとても役に立っている。

・現在不動産企業の営業として BtoB の仕事をしているが、対法人での営業では書面でのやり取りやメールでのやり取りなど、発する日本語よりも書く日本語が多く、学んできた「日本語」がとても役立っている。

・コミュニケーションが特に重要な仕事をしているが、周りと協力しながら学んだ経験、資料を作って学友に調べたことや自分の考えを伝えた経験等が役立っている。

5の「学んだ内容が共感を生んだ」は、日本文学を学んだことが直接的に役立った例となる。

・文学からは作者からも登場人物からも人の心、人生を学べる。私が今している福祉の仕事も人と向き合う仕事であり、文学から学んだことは私のなかで活きていると強く感じる。人の心や時代背景へ意識を向けることの大切さ、言葉への敏感さ、感性を研ぎ澄ませることの重要性を学んだのは文学からであると思っている。

・営業の仕事で、舞台の設営関連の企業に伺ったとき、企業内に貼られていた『道成寺』の薪能のポスターが目に入った。大学時代に『道成寺』を知り、卒業後、先生からお誘いいただき観たことがあったため、企業の方に雑談としてお話を振ってみたところ、今度『道成寺』の舞台の設営をすることを教えていただいた。『道成寺』は大掛かりな仕掛けがあるとても見ごたえのある大曲であるため、設営はとても大変なのではないか等お伺いしたところ、お仕事の大変さ、やりがいなどを語ってくださり、関係性を一気に築くことができ、結果として大型契約へと繋がった。

7の資格取得ができたことには、教員免許、司書、学芸員の資格が取れたことが挙げられているが、今回の回答者の教員が16名に対しては少ない。資格講座で学んだことが活かされたという以下の意見があるが、資格よりも1の繰り返された学びが、仕事上でも生かされている。

・在学時、教員免許と司書資格を取得した。教員にはならなかったが、後輩のOJTや店内の勉強会の開催時に教職課程での経験が役立っている。

#### 4) 卒業後の学びについて

日本女子大学は大学初の「リカレント」を冠した教育プログラムを設置したが、大学で学んだ後も、新たな学びが必要であることは言うまでもない。今回のアンケートでも卒業後にどのような学びをしたのかを、仕事のための学びと、仕事と関わらない学びについて調査した。仕事のための学びが必要かどうかについて必要と答えた123名の書き込んだ内容について、図3「仕事に必要な学び」にまとめた。実際に学んでいるかどうかは不明ではある。

ここで注目したいのは、「仕事に必要な学び」の回答に、情報収集、分析、資料作成などのテクニカルスキルや、コミュニケーション、プレゼンテーションなどのヒューマンスキル、また、ロジカルシンキングなどが全く見られないことである。これは、「3) 日本文学科の学業とキャリア」で取り上げたように、日本文学科での学びが、就職後のキャリアの基本として身につけていて、働くうえで大いに役立っていることを裏付けている。

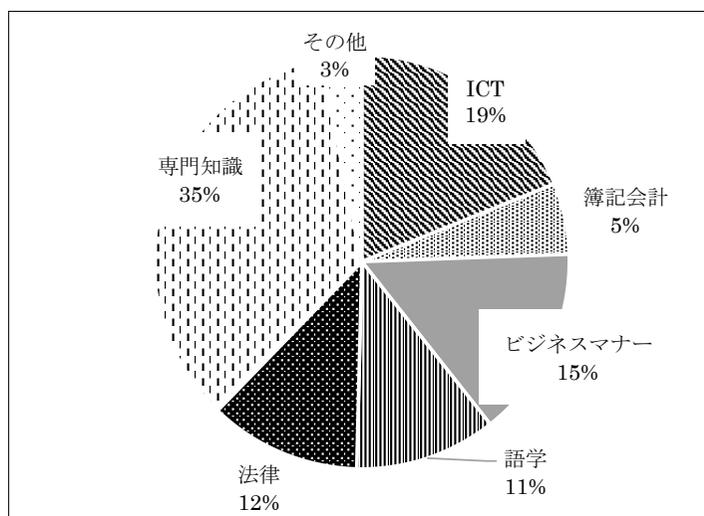


図3 仕事に必要な学び

「専門知識」が35%と多いのは、回答者に教員が多いため、国語科教員としてのスキルをはじめ、教育の実践法、心理学、教育学をはじめとする内容が挙げられた。教員以外の業種でも業務に特化した専門知識の学びが挙げられている。

次に「ICT」が19%と多く、「通信情報」の業種に従事するものがそのうちの3分の1を占めるものの、どの業種からも学びの必要性が挙げられた。MosのエキスパートやITパスポートをはじめ、DXの知識、システムやプログラムの考え方、データベース言語のSQL (Structured Query Language) やプログラミング言語など、様々な段階での学びが挙げられた。

「ビジネスマナー」が15%と比較的少ないのも特徴である。「法律」12%、「語学」11%には英語のみならず、ゲームソフトのための中国語の修得などが必要とされている。

次に、「仕事以外で学びたいと思っていること」への問いには、117名が回答した。そ

の結果を図4「仕事以外の学び」に示した。

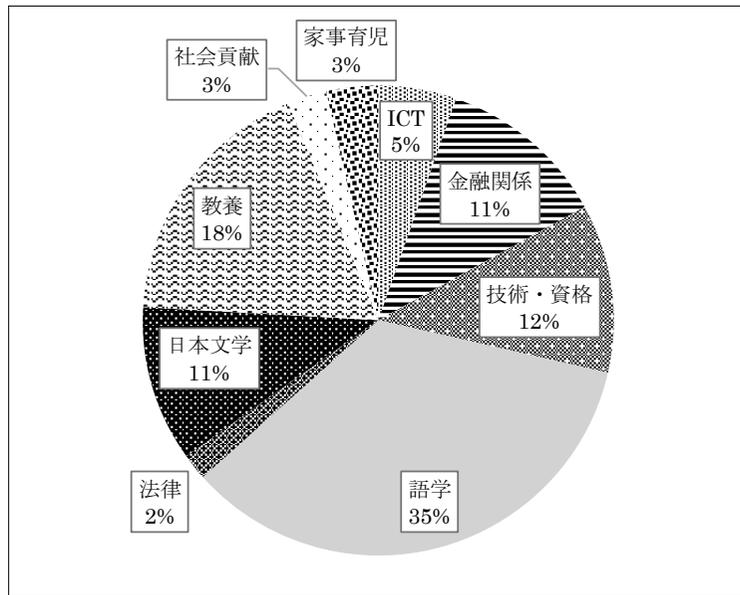


図4 仕事以外の学び

「語学」が最多で35%であった。ここには手話2名も含めたが、記された言語の種類では、英語が20名、韓国語が4名、中国語とドイツ語が2名で、フランス語、スペイン語が1名ずつであった。仕事で学ぶ語学にはなかった韓国語などは、趣味のスキンケアやヨガを行うために習いたいというものである。

次に多かったのは「教養」に分類したもので18%にのぼる。書道、茶道、アロマセラピーなどから、教養として、世界史や世界文化を学びたいなど幅広い学びがあがった。

「技術・資格」12%は、転職を視野に入れた資格取得を目指した具体的な資格が多いが、利酒師の資格、漢字検定の上級資格などもみられる。

注目したいのが、「日本文学」11%に分類したものである。国語科教員・日本語教員を目指したいという、転職を視野に入れて日本文学科での学びを続けようというもの、大学での学びをさらに深めたいという希望など、もう一度、日本文学科での学びを行ってみたいという希望が散見する。これに対しては、科目等履修生として積極的に卒業生を受け入れる体制や、あるいは日本文学科のリスクリング的なプログラムを用意するなど対応を整える必要があるだろう。

## 5) おわりに

今回の卒業後20年までの日本文学科卒業生の動向を知るためのアンケートからは、次のようなことが分かった。

- ① 9割に迫る卒業生が、キャリアを中断することなく、正規で働き続けている。
- ② 自身の明確な意識によって平均3割が転職し、正規で働き続けている。

③産休、育休をとりながらも、自身のキャリアを築いていっている。

④日本文学科が特徴としてきた学びのスタイル、「問題発見から、解決に向けての調査を行い、その結果をまとめて発表する」という繰り返しがキャリア構築の上でも大変役立っている。いわゆるビジネススキルを学科の学びで身に付けられているといえる。

この調査で、これまで正確には把握できていなかった日本文学科の卒業生の社会での活躍と日本文学科での学びの関係が明確になった。日本文学科での学びの方針が、それを体験した卒業生にとって、自身の血や肉となり、キャリア構築に大いに役立っていることを本人たちが、強く実感していることがうかがえる。

今回は、現在の職位の項目がなかったため、回答者のうちのどれくらいが、管理職になっているのかは正確には把握ができていないが、引用コメントにあるように、子育てもし、資格も取り、管理職としても仕事をしながらも、次へのステップに着実に進んでいこうという明確な意志を持ってキャリアを構築していく様子がうかがえた。

日本文学科としては、このような頼もしい卒業生の学びのニーズにも応えられるよう、今回のアンケートを今後の取り組みの基礎データとして活用していかなければならない。また、今回の新入生に対する卒業生のキャリア紹介が、さまざまな分野で活躍している卒業生のネットワーク作りと、後輩のロールモデルとして女性活躍の一翼を担う組織作りにつながるよう取り組んでいる。

---

i 鳥巢彩乃氏：2007年日本女子大学日本文学科中古ゼミ卒業後、ベンチャー企業での事業立ち上げを経て、(株)リクルートマーケティングパートナーズ(現リクルート)に入社。事業計画の策定やKPI設計の他、社内起業としてインターネットサービスを立ち上げ責任者を務める。その後シリコンバレーの女性リーダーシップ開発プログラムを経て、2022年までリクルートリカレント事業改革を責任者として牽引。2017年(株)Sally127創業、代表取締役。ファッションテクノロジー分野にてアプリ不要のバーチャル試着技術の開発と提供を行う。

ii [chrome-extension://efaidnbnmnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.jwu.ac.jp/unv/campuslife/ilcp490000000qu4-att/business\\_2021.pdf](chrome-extension://efaidnbnmnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.jwu.ac.jp/unv/campuslife/ilcp490000000qu4-att/business_2021.pdf)

(さかもと きよえ 文学部教授)